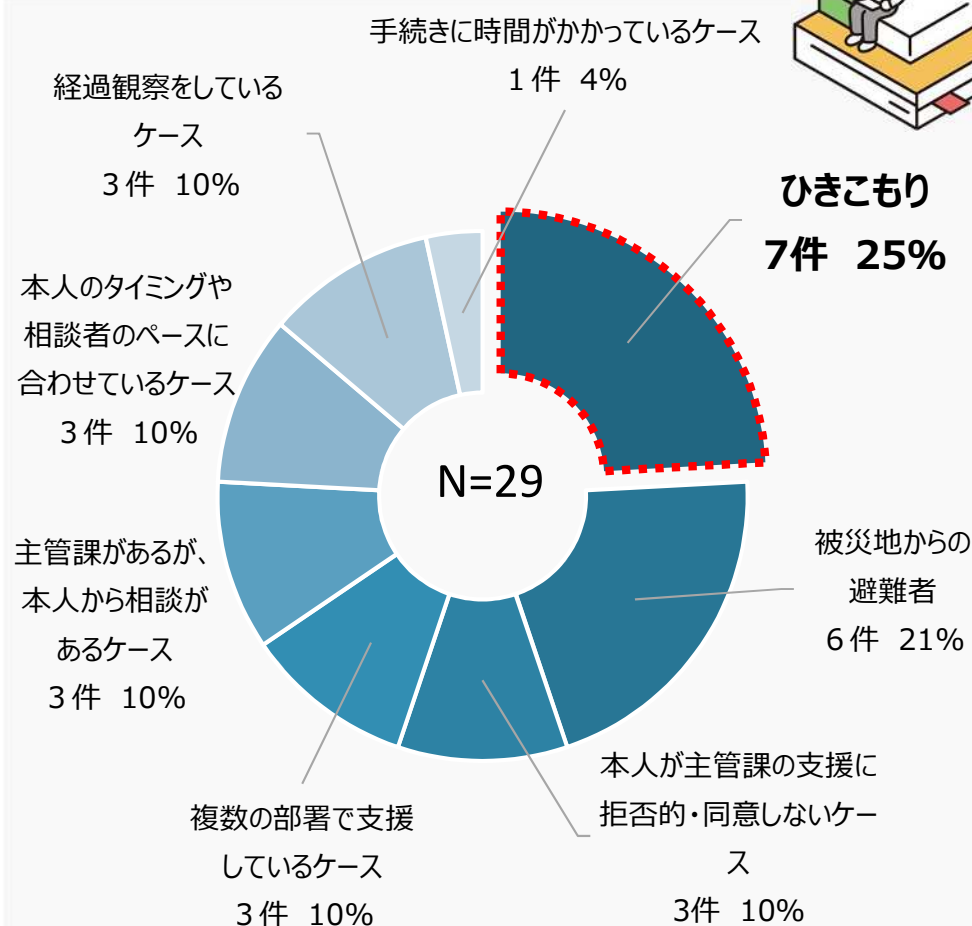


## 現状

くらしのまると相談課に寄せられた相談のうち、1年以上相談継続しているケースを分析したところ、最も多いものは8050問題に代表されるような「ひきこもり」であった。



## 相談を通じて見えてきた課題

- ① ひきこもり状態や社会的に孤立しているケースでは、長期間にわたって継続的な支援を行う地域の団体等、受け皿が必要である。
- ② 当事者の会など、支援の対象となる人々が地域で何らかの活動に参加できる機会を設ける必要がある。
- ③ 地域づくり支援や参加支援を行う上では、複数の地域の支援団体が協力することが求められることから、区と地域の支援団体等との意見交換や支援の協議の場が必要である。

## 今後の方向性

- ✓ 社会資源への参加支援や地域活動団体の状況把握・可視化を進める。
- ✓ ひきこもり当事者会・家族会の開催にも継続して取り組む。
- ✓ ひきこもり等の理解促進や新たな支援者の発掘を目的とした住民向け講演会を実施する。
- ✓ 社会資源の充足を図るため、居場所を立ち上げたい方への運営支援を行う。
- ✓ 団体や支援者間で意見交換等ができる場をつくり、地域ネットワークの構築を進める。

（取組の詳細については、次のページ）

- 👉 令和8年度より、葛飾区社会福祉協議会に事業の一部を委託し、協働して社会的孤立の解消に向けて取り組んでいく。

# ひきこもりや孤独・孤立の解消に向けた取組について

	内容	くらしのまると相談課	葛飾区社会福祉協議会
参加支援・ 定着支援	ひきこもりや孤立状態にある方に対し、社会資源への参加支援及び定着支援をする。	相談等で把握した対象者に対し支援を行う。	社協と関わりのある団体や事業への利用が見込める、くらまる課からつながれたケースに対して支援を実施する。
社会資源の 把握・可視化	対象者のニーズや状態にあった社会資源の選択肢を増やすため、幅広く地域活動団体や活動等の状況を把握するほか、他の支援団体と共有できるようマップ作成等の可視化を行う。	日頃の個別支援の中での関わりや、地域団体訪問により社会資源を把握し、参加支援等に活かす。	社協が関わっている団体の情報をまとめるほか、くらまる課の情報と合わせてマップ作成を行い、対象者への情報提供や支援者間の情報共有に活用する。
ひきこもり 当事者会・ 家族会	【当事者会】ひきこもり当事者が集い、同じような悩みを抱える方と交流することで、社会生活から孤立することを防ぎ、困ったときの相談先や日常生活に役立つ情報が得られる機会を創出する。	当面の間はくらまる課職員が「かつROOM」として実施する。くらまる課の相談等で把握した対象者に対して、直接声掛けを行い参加を促すほか、区内外を問わず幅広く参加者を募る。	くらまる課が開催する当事者会の周知等について協力していく。
	【家族会】ひきこもりの方の家族を対象とし、同じような境遇にある人と気持ちを共有し、学びを深めることを目的とした座談会を開催し、自主活動団体としての立ち上げを目標に支援する。	「だんご虫Time」として区が取り組んできた家族会の活動を社協に引き継ぐ。	くらまる相談や住民向け講演会等でつながりが生まれた方を中心に、社協にある団体支援のノウハウを活かし、自主活動団体としての立ち上げを手厚くサポートしていく。
住民向け 講演会	区民に向けて、ひきこもりをはじめとした地域課題への理解を深めていただくとともに、支援活動に携わる区民の発掘を目的とした講演会を実施する。	内容について社協と協働して検討を行うとともに、事業の周知等を行う。	理解を深めていただくだけでなく、自主的な活動を行う方を発掘することも目的としているため、団体立ち上げ支援等のノウハウがある社協を中心に実施する。
居場所づくり	社会資源の充足を図るため、地域に新たに居場所を立ち上げたい方への運営や立ち上げ支援を行う。	支援団体等との関わりの中で需要や課題などの意見を収集し、居場所の立ち上げにつながりそうなものは社協に引き継ぐ。	居場所づくり講座を実施するほか、くらまる相談や住民向け講演会等でつながりが生まれた方を中心に、社協にある活動支援のノウハウを活かし、自主活動としての立ち上げを手厚くサポートしていく。
地域ネットワークづくり	分野を超えたネットワークにおいて、多世代交流や地域課題の意見交換等ができる場を作り、多様な地域活動が生まれやすい環境整備を行う。	ひきこもり支援を行っている支援者同士の情報交換や顔の見える関係づくりのため、ひきこもり支援者交流会を行う。	社会福祉法人ネットワークに対してひきこもり支援への参画・協力を依頼するとともに、地域とのつながりの強化や居場所づくりにつながる小地域福祉活動を継続して実施する。